

日本医史学雑誌二十八巻総目次

原著

有田樹林の論文「日本種痘ノ始祖」の
紹介と痘苗活着年の検討……………添川 正夫……………一〇一～一〇四

森立之「八素説」をめぐって—『素問』
の巻数にこいての疑問……………丸山 敏秋……………一五〇～一五三

Prescriptions Written at the Time of
the Han Dynasty……………Akira AKAHORI……………一三〇～一三三

The History of Acupuncture in the West:
Exoticism, Esotericism and Opposition to
Cartesian Rationalism, Complementarity
to the Occidental Medical System ……J. Bossy……………一四〇～一四一

日葡辞書から見た安土桃山時代の医学
一、医療用具…亀 節子、大槻 彰、前川久太郎……………一五七～一六〇

E・ヘルツと発疹チフス……………安井 広……………一七〇～一七三

御雇解剖学教師ギールケとディッセ(一)
……………小関 恒雄……………一七七～一八〇

お雇いオランダ人医師総論 ボードイ
ン人脈……………石田 純郎……………一八六～一九〇

日露戦争における切斷・義肢と乃木武
義手……………武智 秀夫……………一九六～二〇一

「蘇」にこいて……………白崎昭一郎……………二〇五～二〇八

北海道における明治期の帝王切開術の

歴史……………松本 明知……………二二二～二二五

古京ノ出土遺物の医史学的研究(その
二)人形・人面墨書土器などについて
……………樋口誠太郎……………二二五～二二八

Two Legacies of the Later Alexandrian
School: The preliminary questions in
commentaries; the theory/practice
division of medicine
……………Andrew CUNNINGHAM……………二四〇～二四三

シーボルトと彼の日本文化への影響……………呉 秀三……………二四三～二四六

呉秀三先生の生涯と業績……………岡田 靖雄……………二四四～二四五

私宅監置調査の現代的意義……………吉岡 真二……………二四七～二五〇

呉秀三・森鷗外の統計研究に寄せて……………丸山 博……………二五七～二六〇

シーボルト研究史における呉先生……………筋内 健次……………二六九～二七二

華岡青洲研究のその後……………宗田 一……………二八二～二八五

洋学史家としての呉秀三先生……………大久保利謙……………二八七～二九一

晩年の呉秀三先生と私……………緒方 富雄……………二九二～二九六

東京大学医学図書館所蔵呉秀三文庫目
録……………岡田 靖雄……………二九七～三〇二

医学文化館に寄託されている呉秀三先
生遺品目録……………岡田 靖雄……………三〇三～三〇八

Ph. Fr. V. Siebold und sein Einfluss
auf die japanische Zivilisator der
neueren Zeit……………Shuzo KURE……………三二一～三二四

研究ノート

三宅秀日記(一八八八—一九三八)……………小関 恒雄…三〇〇〇
 来日イギリス人医師の研究……………松木 明知…三〇〇〇
 多紀元簡と「蝦夷地異疾考」……………松木 明知…三〇〇〇
 A・F・ポードインの生年月日について
 の考察……………石田 純郎…三〇〇〇

資料

天障院様御麻診諸留帳について……………戸塚武比古…三〇〇〇
 医学教育の中の医史学—全国アンケート
 ト調査の結果から……………松木 明知…三〇〇〇

第83回日本医史学会総会演題目次

特別講演

祭祀の医療思想……………宗田 一…三〇〇〇
 京都の医学の源流……………山田 重正…三〇〇〇
 会長講演
 江戸時代の京都における医の倫理の史
 的考察……………守屋 正…三〇〇〇

一般口演

1、安芸守定と安芸家(北小路家)に
 ついて……………北小路博史…三〇〇〇
 2、日ボ辞典から見た安土桃山時代の
 医学—I 医療用具
 ………………亀 節子・大槻 彰・前川久太郎…三〇〇〇

3、向井元升の家系について……………中西 啓…三〇〇〇
 4、誰が山脇東洋に苛私林牛私「解体
 原書」を贈ったか……………川島 恂二…三〇〇〇
 5、いわゆる「ターヘル・アナトミア」
 と解体新書の比較(その三)……………酒井 恒…三〇〇〇
 6、稲村白羽(三伯)の「金匱方註」
 について……………中山 沃…三〇〇〇
 7、本居宣長の醫學と國學……………高橋 正夫…三〇〇〇
 8、柚木太淳について……………中野 操…三〇〇〇
 9、江馬元齡の医学史的漢詩文につ
 いて……………青木 一郎…三〇〇〇
 10、整骨範草稿について……………蒲原 宏…三〇〇〇
 11、日本における新生児沐浴の変遷…藏方 宏昌…三〇〇〇
 12、サレルノ医学前史……………小沢 吉見…三〇〇〇
 13、フランスにおける最初の医学新聞
 を発行したニコラ・ド・ブレニーに
 ついて……………大村 敏郎…三〇〇〇
 14、鼠の自然発生実験の考察—実験中
 の事故は史論の対象ではない—…安江 政一…三〇〇〇
 15、F・グリソンの非刺激性学説とそ
 の影響……………栗本 宗治…三〇〇〇
 16、医学からみた医化学からの生
 学への発展とその未来像……………柴田 幸雄…三〇〇〇
 17、ディオスクリデス・「ウィーン写本」

- 大槻真一郎……二六〇～二〇〇
- 18、英国外交文書中の医師W・ウイスの足跡(主にP・R・OのF・O 46による)(1)……………原口 忠男……一〇一～一〇三
- 19、Monteverde 作 Edward Jenner の大理石像……………加藤 四郎……一〇三～一〇五
- 20、中国における「医は仁術」の起源……………山本 徳子……一〇五～一〇七
- 21、中国医学と道教(その二、太平洋について)……………吉元 昭治……一〇八～二一〇
- 22、中国古代医学に於ける陰陽について……………家本 誠一……二一〇～二二三
- 23、日本の原始時代における医療と王権……………奥富 敬之……二二三～二三五
- 24、"延喜式卷第三十七典薬寮" 解釈の一試み……………MACE美枝子……二五～二七七
- 25、「疔瘡」は麻疹……………三井 駿一……二八～三〇
- 26、嵯康『養生論』の一考察……………丸山 敏秋……三〇～三三
- 27、日本における初期の小児科領域についての一考察……………安達原瞳子……三三
- 28、(誌上発表) 正親町天皇の半井氏に『医心方』を下賜された理由について……………高島 文一……三四～三五
- 29、(誌上発表)『医心方』の伝写について(Ⅱ)……………杉立 義一……三六～三八
- 30、徳島時代の関寛斎(統報)その医学的業績について……………福島 義一……三九～四〇
- 31、本邦放射線事始に尽した人びと……今市 正義……四〇～四一
- 32、医会設立当時の静岡県医師人名簿……………土屋 重朗……四一～四三
- 33、J・C・ベリーと柴原宗助……………金沢 豊治……四四～四六
- 34、「幼きイエズス修道会」京都支部における看護婦養成事業について(明治25～37年)……………坂本玄子・高橋政子・名原寿子・山根信子・広瀬房子……三七～三九
- 35、「特命全権大使米欧回覧実記」における米欧の労働衛生事情……………乾 修然……四〇～四一
- 36、岡谷蚕糸博物館所蔵資料にみる製糸工女の医療費負担について(第五報 中途退場工女と葉価負担)……………清水 勝嘉……四一～四三
- 37、(誌上発表) 大正期の諏訪地方における製糸工場の労働環境について……………清水 勝嘉……四三～四五
- 38、水銀中毒の歴史……………三浦 豊彦……四五～四七
- 39、(誌上発表) 京都における梅毒小史……………藤垣 亀雄……四八～五一
- 40、中国伝統医学修得学生の漢語素養について……………小杉 順一……五一～五三

- 41、北京・中医研究院所蔵の『西陲古
方技書残卷彙編』について……………森村 謙一…二五四
- 42、漢代の粉末製造法「治」法につい
て……………赤堀 昭…二五五～二五七
- 43、有持桂里の墓碑銘および過去帳と
その漢方医学……………原 桃介…二五七～二五九
- 44、武相の種痘—平塚宿の場合……………深瀬 泰且…二五九～二六一
- 45、津藩の種痘……………茅原 弘…二六一～二六三
- 46、新資料「伊藤圭介関係書翰集」に
ついて……………谷澤 尚一…二六三～二六五
- 47、『慾齋覚書』について……………遠藤 正治…二六五～二六七
- 48、吉益四峰（今井鉄太郎）の家系に
ついて……………森 納…二六八～二六九
- 49、85年京都産婦人科医界のあゆみ
……………三木通三・森 武史・伴 一郎…二六九～二七一
- 50、緒方正清と産婦人科学史……………石原 力…二七一～二七三
- 51、明治時代の公立医学校廃止の顛末
（その一）……………西川 溟八…二七四～二七五
- 52、いわゆる「ドイツ医学」について
……………中川 米造…二七六
- 53、成医会講習所設立の頃……………大滝 紀雄…二七七～二七八
- 54、エルウィン・ベルツと温泉医学……………安井 広…二七八～二八〇
- 55、金沢におけるホルトマンの外科治
療……………寺畑 喜朔…二八〇～二八二
- 56、陸海軍に於ける初期の脚気病対策
……………佐久間温巳…二八二～二八三
- 57、土肥慶蔵と呉秀三……………長門谷洋治…二八三～二八五
- 58、呉秀三先生ヨーロッパ留学中の署
名録—オーストリー・ドイツ精神神
経学の巨匠たちの筆蹟……………岡田 靖雄…二八六～二八七
- 59、京都における歯科医学の先覚者た
ち……………浦田 耕作…二八八～二九〇
- 60、欽明朝に來日したイラン系の医師
王有倭陀について……………伊藤義教・松木明知…二九〇～二九一
- 61、（誌上発表）中川五郎治の種痘法
の研究—新しく発見された五郎治に
よる被接種者……………松木 明治…二九一～二九二
- 62、（誌上発表）世界最初の麻酔関連
死を巡って—トーマス・ハーバード
の症例……………松木 明知…二九二～二九三